

# Ⅱ-6

## ノート指導

### ノートを見れば自分の学びの足跡が分かるよ！

#### 目的に応じた書き方を指導する。

ノートに記録する目的は見た目に美しくまとめることではありません。「何を書くのか」「何のために書くのか」を明確にさせて、目的に応じた書き方を指導しましょう。

##### <目的>

習ったことを書きとめる。

1時間の授業の要点を整理し、後で見直すために書く。

考えを表現したり、深めたりする。

予想、調べて分かったことや考えたことなどを書く。

練習して定着を図る。

漢字や英単語、計算問題などを繰り返し練習して身に付けるために書く。

##### <指導のポイント>

- ・ 要点が整理された構造的な板書をする。
- ・ 重要語句は、色を使って書き、解き方や考え方などのまとめの文章は、線で囲むよう助言する。

- ・ 「自分の考え」を書く時間をとる。
- ・ 「友達の考え」を書き、自分の考えと比べさせる。
- ・ 「事実」と「考え」や「まとめ」と「感想」など、整理して書くべきものは助言する。
- ・ 間違いは消さずに二重線などで訂正させる。

- ・ 「5分間で」「10回ずつ」など、具体的に指示する。
- ・ どこで間違えたか分かるように、思考の過程（補助計算など）も書き残すよう助言する。

#### 学びの振り返りができるような書き方を指導する。

「前の時間は何を学習したかな？」と聞いたとき、子どもたちはノートを見て確認しようとしていますか？子どもが自らの学びを振り返ることができるように書き方の指導を工夫しましょう。

##### ○ 振り返るためには、目印が必要！

(小学校の例)

小学校ではよくノートの左端から1ます空けて縦に線を引かせ、学習課題やまとめなどの印を書かせるようにしています。校内で指導方針を統一すると効果的です。



11/2  
P 34

学

自

友

ま

「日付」「教科書のページ」「問題番号」などは、位置を決めて書く。

直角三角形の面積のまとめ方を考えよう。

長方形にしてもとめる ← 長方形にしてもとめた後、半分にする  
 ~~$3 \times 4 = 12$~~  答え  $12 \text{ cm}^2$  ←  $3 \times 4 \div 2 = 6$   $6 \text{ cm}^2$



半分に切って合わせて長方形にする

$$3 \times (4 \div 2) = 6 \quad 6 \text{ cm}^2$$



直角三角形の面積は **底辺×高さ÷2** でもとめることができる。

「学習課題（問題）、めあて」「予想」「自分の考え」「友達の考え」「まとめ」などは、印や書き方を決めて、黒板にも同じように板書するとよい。

## ノート指導を通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

ノートは子どもが書くものですが、学ぶ意欲を高める上では、仲間の承認、教師の助言や励まし、保護者の温かい言葉かけなどが大きな役割を果たします。

### ○ ノートを点検・評価し、助言や励ましの言葉を書き添えましょう

<例>

- ・ 子どもの気付きを評価するとともに、他の見方や考え方のヒントを書き添えることで、子どもの考えの広がりや深まりを促す。
- ・ 誤字や記述の誤りの訂正、内容の補足をする。
- ・ 子どもの変容や成長を見逃さず具体的に褒める。
- ・ ノートの使い方の工夫や学習に取り組む姿勢のよさを具体的に褒める。



たかし君がさか上がりをしている様子を見ていると、鉄ぼうをおなかに引きつけるようにしていました。  
友達の手を使い方をよく見ていますね。

【具体的に称賛する例】

つなぐ電熱線を2個にすると抵抗の値が大きくなるのが分かりました。  
電熱線はどのようにつないでもそうなのかな？

【考えの広がりや深まりを促す例】



## ノートを活用して、学級全体の子どもの学びを高める。

### ○ 授業で子どものノートを活用しましょう

<活用例>

- ・ 子どもがノートに書いた内容を確認し、学級全体での意見交流によって考えが深まるように、発表する順番を工夫する。
- ・ 教材提示装置などでノートを大きく映して発表時に活用させる。
- ・ 互いのノートを見て、意見や感想を話し合う場を設定する。
- ・ 単元の終わりに振り返りの時間を設け、ノートを基に新たに分かったことや考えの変化を確認させることで、子どもが自分の変容を確かめられるようにする。



### ワンポイント！

#### ノートを通して家庭と連携し、子どもを育む

保護者は、子どものノートを見たときに、級友からの意見や感想、教師からの助言や励ましの言葉が書き添えられていたら、教師の日々の指導や子どもの学びを実感するものです。また、子どもの取組のよさや考えの深まりを認める言葉があると、保護者は授業内容について子どもにたずね、頑張りや褒めることにもつながります。懇談会などの機会に、ノートを基に子どもの頑張りや話を試してみてもいいでしょう。